



[ハレとケのまち京都]  
やすらい花

景 110 (R01) 歴 2-03 (R3)

今宮神社は船岡山の北方に位置し、平安遷都以前から疫神を祀る社があった地に、長保3年(1001)創祀された古社です。

室町時代には将軍家若君の守護神として、将軍家から神馬を奉納されるなど特別な保護が与えられていました。その後、徳川家光の側室、綱吉の生母である桂昌院が、故郷西陣の興隆に努めるとともに、元禄7年(1694)には荒廃していた社殿を造営、今宮神社の再興にも力を尽くし、祭礼も隆盛を取り戻しました。

紫野御霊会を起源とする今宮祭は、神輿出しに始まり、西陣の町内から鉦が出される神幸祭、還幸祭、神輿おさめまで19日間に及び、由緒と伝統ある西陣の祭りとして現在も営まれています。

明治29年には本社と疫神社を焼失しましたが、明治35年に本殿、明治41年に疫神社が再建されました。大正末期、船岡山北麓から大徳寺境内を突き抜いて南北に通じる参道が新設され、その北端に朱塗りの楼門が建ち、現在の社頭景観となりました。

元日の歳旦祭に始まり、大晦日の除夜祭まで一年を通じて様々な祭礼が執り行われ、多くの参拝者が訪れます。なかでも春のさきがけの祭りとして4月に行われる「やすらい花」は疫病を鎮め平安を願うもので、太秦の牛祭、鞍馬の火祭とともに京の三奇祭のひとつとして、国の重要無形民俗文化財に指定されています。



やすらい祭 [ホームページ写真]



今宮祭 [ホームページ写真]



〒603-8243 京都市北区紫野今宮町21

電話番号 075-491-0082

アクセス 市バス「今宮神社前」下車すぐ

ホームページ <http://www.imamiyajinja.org>